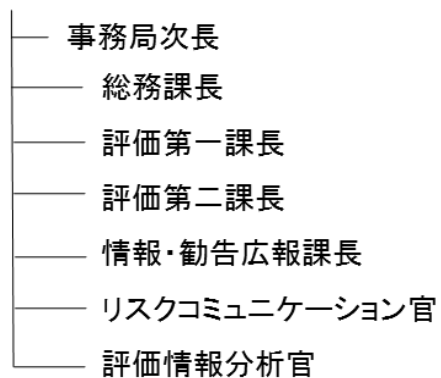


## 評価技術企画室の整備について

より迅速かつ信頼性の高いリスク評価のため新しい評価方法（動物実験に加えて、培養細胞、コンピューター等を用いた手法の導入・活用等）や新たな技術（再生医療技術等）を応用した食品の評価方法の企画・立案機能を強化するため、本年4月に評価第一課に評価技術企画室を設置。10月からは、増員を行い、室の機能を拡充（8名から11名に増員。）。

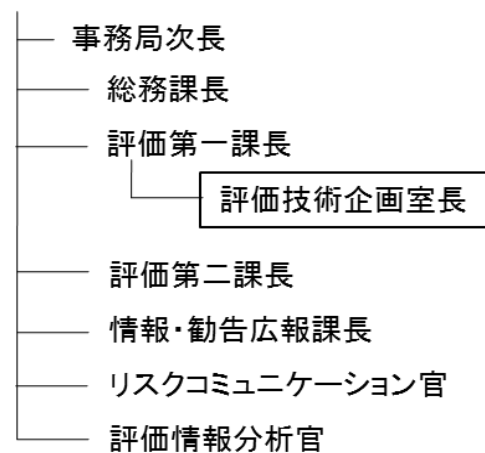
## 旧組織図

事務局長



## 新組織図

事務局長



## ポイント1「新たな評価手法の導入・検討」

○ 多大な時間と費用を必要とする従来の動物試験に代わる、新たな評価手法の検討・導入 “*in vivo*（生体内で）、*in vitro*（試験管内で）から *in silico*（コンピューターを用いた）へ”

- ・ 化学物質の毒性等を、類似した構造の物質から予測する「QSAR データベース」の整備
- ・ ごく微量のばく露であれば、健康への悪影響が極めて低いと考える、「毒性学的懸念の閾値（TTC）」の導入
- ・ より正確なばく露評価や毒性評価に資する、確率論的評価方法の導入

## ポイント2「新たなハザードに対するリスク評価系の確立」

- 食品中のアレルギー物質の評価
- 再生医療技術（iPS細胞など）を応用した毒性評価
- 遺伝毒性発がん物質に関する評価